

## ETHNIC MEDIA

# エスニック・メディア座談会

# 多文化情報を 発信する エスニック・メディア

「エスニック料理」はわが国では広く人気になったのに、「エスニック・メディア」つまり「在日外国人メディア」は、日本人で知る人はごく少ない。新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット放送など国内にあるエスニック・メディアは200を超えるといわれ、在日外国人にとって「食」同様に欠くことのできない存在だ。このエスニック・メディアの中身をのぞくと在日外国人のホンネが見えてくる。エスニック・メディアの専門家に「在日外国人世論」の現状とその歴史を語ってもらいました。(司会:本誌編集長・石原進)

石原 エスニック・メディアといつても、日本人にはほとんど馴染みがありません。しかし、215万人(2007年末)を数える在日外国人にとって、彼らの生活にかかわる情報を伝えるエスニック・メディアは欠くべからざる存在です。エス

ニック・メディアの果たすべき役割、その意義などを3人の専門家に話し合ってもらいます。

まず、エスニック・メディアとは何か。白水さんから説明していただけますか。

白水 一言でいえば在日外国人のた

めの情報媒体ということになります。大きく分けて日本産、すなわち日本国内で編集、編成されているものと、本国産、すなわち本国から直接来るメディアの二つがある。本国からのメディアはディアスボラ・メディアとも呼ばれる。日本での定住という観点からは日本での適応情報も伝える日本産のエスニック・メディア、つまり狭義のエスニック・メディアに注目する必要があります。この座談会でエスニック・メディアという場合は主に日本国内産の外国人向けメディアを指すことになります。

石原 日本では中国人向け、ブラジル人向けのメディアはどのくらいあるのですか。

段 中国人向けは小さなものを含めると、現在50を超えるメディアが日本国内にあります。

イシ ブラジルも実は50ぐらいあります。地域限定のフリーペーパーもたくさんあります。

石原 エスニック・メディアの歴史をちょっと振り返りますか。

段 1898年に神戸で創刊された『東亜報』と横浜で創刊された『清議報』が、もともと古く発行された新

聞だと思います。中国人エスニック・メディアには、大きく分けて二つの段階があります。一つは20世紀初めから戦前まで、日本に亡命した孫文やその支持者たちの「政論新聞」。同時に第一次留日ブームがあり、中国人留学生による新聞や雑誌も多数発行。内容は政治を中心で、100以上の中華新聞が発行されました。

しかし、日中戦争のころにはほとんど廃刊となり、1972年に日本交正常化したあとも、80年代半ばまではほとんど中国語メディアはなかった。1988年12月に創刊された留学生新聞が第二段階の最初の新聞です。第二次留日ブームで、今までに200ほどのメディアが誕生し、多くは消えていきました。草分け的存在の留学生新聞は今12月に創刊20周年を迎えます。

イシ ブラジルのメディアは、1990年代には有料の新聞、週刊紙、そして地域のFMラジオが主流でした。画期的だったのは、90年代半ばのスカイパーエクトTVのブラジルチャンネルがそれです。そこではブラジルの有名番組に限らず、日本でのニュース、ドキュメン

ト、バラエティ番組を制作して放送したわけです。

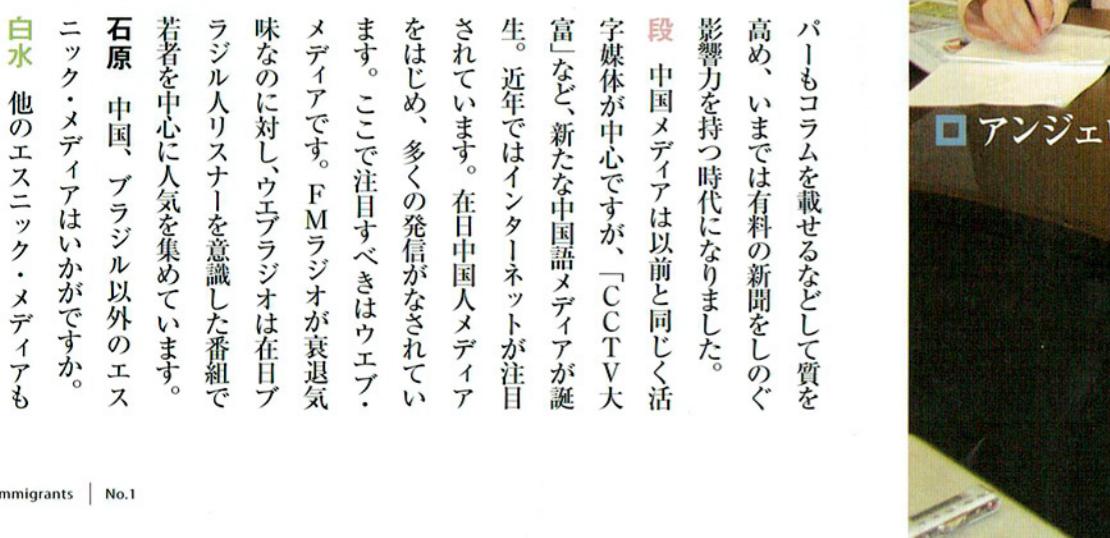
石原 メディアが報じる中身に質的な変化はあるのでしょうか。

イシ 残念なことにテレビのエスニック・メディアとしての性格が後退していることを指摘せざるを得ません。ある時期、ブラジルの番組専用のチャンネルとほとんど日本で制作されたローカルな番組を流すチャンネルがあつたが、いまは両チャンネルともブラジルの番組の再放送が中心となり、ローカル番組が縮小傾向にあります。一方、活字メディアはフリーペーパー、フリーマガジンの全盛期になっています。当初、コンテンツが余り充実していなかつたフリーペー

パーもコラムを載せるなどして質を高め、いまでは有料の新聞をしのぐ影響力を持つ時代になりました。

段 中国メディアは以前と同じく活字媒体が中心ですが、「CCTV大富」など、新たな中国語メディアが誕生。近年ではインターネットが注目されています。在日中国人メディアをはじめ、多くの発信がなされています。ここで注目すべきはウエブ・メディアです。FMラジオが衰退気味なのに対し、ウエブラジオは在日ラジオ人リスナーを意識した番組で若者を中心に入気を集めています。

石原 中国、ブラジル以外のエスニック・メディアはいかがですか。



アンジェロ・イシ  
あんじえろ・いし

武藏大学社会学部准教授。ブラジル・サンパウロ大学でジャーナリズムを専攻。1990年「デカセギ現象」を研究テーマに国費留学生として来日。以来、外国人問題に関して啓蒙的な活動を続ける。エスニック・メディアのコラムニストとしても有名。

とも、一般的な国民が異文化に許容的なる傾向はあるといえる。そうした社会は抑圧が減るから、論争する機会も減るという循環になるでしょう。極端な話、問題がなくなればオピニオン機能も小さくなる。また、例えば、中国と台湾というような対立軸があると論争があつても不思議はないが、日本では台湾メディアが小さいのでさほど深刻な対立関係にならないようです。

石原 在日外国人という共通の立場から、何らかの形の連携・連帯というのはあるえないのかどうか。その場合、ある種の壁を作ってしまう別の機能を果たせないのでしょうか。

**白水** 出身国が同じでも連帯が難しいのだから、まして出身国が異なるとなるとメディア同士が連絡を取り

とも、一般的な国民が異文化に許容的なる傾向にはあるといえる。そうした社会は抑圧が減るから、論争する機会も減るという循環にはなるで

しょう。極端な話、問題がなくなればオピニオン機能も小さくなる。ま

た、例え、中国と台湾というよう

な対立軸があると論争があつても不

思議はないが、日本では台湾メデ

アが小さいのでさほど深刻な対立関

係にならないようです。

の日本社会への適応を手助けするは

なつてもらうという立場からみれば、彼らがこの本国直送の情報にのみ浸るという状態はあまり好ましくない。というのは、メディアが日本の中でも文化的な飛び地を作つてしまふからです。そうなると、本来同胞の日本社会への適応を手助けするは

同じような傾向だと思います。かつては日本国内の同胞コミュニティを意識して紙面や番組を制作していました。すなわち、日本各地の同胞コミュニティからの情報をこまめに集めるという努力がなされたが、最近は本国からの直送の情報がどんどん増え

てきました。

在日外国人に日本社会の一員になつてもらうという立場からみれば、彼らがこの本国直送の情報にのみ浸るという状態はあまり好ましくない。というのは、メディアが日本の中でも文化的な飛び地を作つてしまふからです。そうなると、本来同胞の日本社会への適応を手助けするは



はいわゆる「論壇」が不在である。なに等しい。有料新聞を見渡しても、人々の意識改革なり活発な議論を促すような刺激的なものは不在だし、フリー・ペーパーを見てもまだ足りない。例えば日本における外国人政策が日系人を冷遇する方向を向いて逆風が吹いても、どのくらい強い逆風かがわからない。いつの間にか日系人が社会の片隅に追いやられ、日本から追い出されて……(笑い)。

**石原** 在日中国人メディアでは、いかがですか。

**段** オピニオンがない、という意味では、ほぼ同じ傾向ですね。日本に在日中国人メディアが誕生したばかりの100年ほど前の新聞は中国政府への批判があつた。現在のメディアは生活情報紙からスタートしていますから、政治のニュースは少

白水 繁彦  
しらみ だいしげひこ

駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部教授。80年代から外国人コミュニティ文化とエスニック・メディアの果たす役割に注目。国内外でのフィールドワークなど多彩な研究活動を経て、現在この分野の第一人者として活躍する。

り合うのはさらに難しい。しかし、ばらばらに動いていては大した力にならぬのは事実で、そこで必要になるのはブリッジング、橋渡しの機能だ。エスニック・メディアの経営者にはぜひ考えてほしいことがあります。ビジネスも大事だが、同胞つなぎ、他のエスニック集団をつなぎ、マジョリティである日本社会とつなぐ、橋渡しの役割を担つてほしい。

例えば在日外国人情報センターの小池氏や、段さんのように他集団や日本社会をつなげようと考へる人がいないと、メディアが何百あつても大きき力にはならないと思いますが。段 それに、日本政府や社会に対する批判を中国語で書いても意味がないのです。英語または日本語で出さなければならぬが、日本語で出している中国のメディアは2、3紙で、

段 躍中  
だん・やくちゅう

中国湖南生まれ。中国青年報記者を経て、1991年に来日。新潟大学で学び、博士号を取得。1996年から在日中国人の活躍や情報を紹介する「日本僑報」を創刊し、出版社株日本僑報社を設立。日中関係専門の情報誌や書籍を多数出版している。

ほとんどが中国語。私は日本語のメールマガジン「日本僑報電子週刊」を毎週水曜日に発刊していますが、日本人の読者が少なくありません。また、中国政府に批判的な本も出版していますが、中国のマイナス面をなぜ日本社会に発信しなければならないのかと批判されることもあります。

最近では胡錦濤さんにに関するブログを書いたら、中国で私のブログ自体が開けなくなっています。胡錦濤さんの訪日は成功だったと中国のメディアは評価したが、私はブログに「三つの残念」ということを書きました。それは日本の日中友好団体と華僑華人団体が共同主催した胡錦濤さんの歓迎パーティーに参加して感じたことを率直に記した内容です。

石原 ブラジル政府、日本政府に

ないし、ある程度ダイジエスト的な性格をもつていてると思います。いまの中国政府に対する批判や辛らつな論評はほとんど見られません。「政論」もありません。中国国内のマスコミ関係者からは、海外にいるメディアとして自覚や努力が足りないと言われた。北京でも日本の中国系メディアはなぜおとなしいのか、と指摘されました。

石原 米国の中中国系メディアと比べておとなしいということでしょうか。段 その一因には、米国の中国系メディアは、読者の数が日本よりはるかに多い、ということが挙げられます。中国人だけで300万人、日本の5倍もあります。中国のほか台湾系もあります。

もう一つは居住国の政府、社会に

対してもの申すという面だ。戦前のハワイの邦字紙の中には日本語でいからもの言つても通じないから英語版を作つてハワイ政府を批判した例もあります。

最近だと、居住国の政府が「外国人」との融和を目指して多文化主義の政策をとるというケースが出てきました。多文化主義という国是ではなく

対する厳しい注文が少なすぎます。国家による検閲や弾圧があるわけではありませんが、メディアの側に変な自粛が働いてのでは。

**白水** どうしてですか。

**イシ** 誤解を恐れずにいえば、記者たちの間に変なエリート意識があります。工場で働く匿名の権力を持つていないブラジル人の代弁者という意識より、在日ブラジル人コミュニティの勝ち組というか、上流層という意識があるのでないか。工場労働者は大使館や領事館のパーティーに呼ばれないけど、エスニック・メディアは呼ばれます。こういう特権に酔っている人は少なくないはずです。そのあたりがちょっと気がかりなのですが、こういう話をするとボクはますます嫌われるけど(笑)。

**石原** 在日外国人がどのように生活し、何を考えているのか、日本人はもつと知る必要があるはずです。**イシ** 在日ブラジル人のサクセストーリーもいっぱいあり、エスニック・メディアは報道していますけど。日本のメディアがそれをもとに報道してくれれば、いい流れができますが。

石原 日本のメディアでも在日外人が登場するケースが一時に比べれば大幅に増えています。

**イシ** 段さんがいるからあえて言わせてもらいますが、日本の報道は狭い意味でのアジア重視だと思いません。在日ブラジル人の出番はほとんどない。

**白水** 私の目から見れば、それは仲介者、すなわち日本のメジャーナメディアとつなぐブリッジング・エンジニアの圧倒的な少なさが背景にあると思う。南米の人はブリッジングをする人が少ない。アンジエロさんは頑張っているが、日本のメディアはそういう情報源を頼りにして報道しているのだから。

**石原** 私のところには日本のマスコミの人々がよく来ます。よくある在日中のマイナス情報は得られませんが、誰が博士号をとったとか本を持っています。実はマイナス情報より、プラスの情報の方が多いのです。白水先生が言われるブリッジング、日本の架け橋として、事実を発信したいと考えています。

**イシ** 段さんのような戦略的な接し方ができる人が足りない。そもそもブラジル系エスニック・メディアの関係者にはバイリンガルが少ない。かろうじてバイリンガルが営業の人と社長だったりして。

**白水** いろいろなエスニック・メディアの関係者と付き合っているが、南米の人ほど日本語ができるのも珍しい。どこの国の中でも最低、編集長は日本語をしゃべります。うまくなくても一生懸命しゃべります。南米の人ははじめに日本語を勉強していない。工場労働者に比べて給料もいいし、メディアの人は恵まれているのです。

**段** 在日中国人が活躍している背景には、二つのことがあります。国際

私のところには日本のマスコミの人々がよく来ます。よくある在日中のマイナス情報は得られませんが、誰が博士号をとったとか本を持っています。実はマイナス情報より、プラスの情報の方が多いのです。白水先生が言われるブリッジング、日本の架け橋として、事実を発信したいと考えています。

最近は在日中国人も豊かな人が増え、数千万円の家をキャッシュで買う人もいる。日本には感謝をしなければならない。

在日中国人や元留学生を活用してほしいと思います。

石原 エスニック・メディアにはもうと日本社会、日本人とのつながりを意識してもらいたい。日本人もエスニック・メディアにしっかりと向き合るべきでしょう。新たなメディアとして登場する「Immigrants」が日本人と在日外国人の架け橋の役目を果たしてくれるよう期待したいですね。

**白水** きょうはありがとうございました。頑張りますので、ご支援をお願いします。



化で日本の大学が在日外国人を受け入れるようになったことと、中国の改革開放プラス個人の努力です。中国は貧しかったからハングリー精神がある。日本で博士号をとった中国人は6000人もいる。親日家もたくさん育っていますが、日本政府は国費留学生がどのような進路をとる、どのような活躍をしているのかの追跡調査もしていません。もっと在日中国人や元留学生を活用してほしいと思います。

石原 エスニック・メディアにはもうと日本社会、日本人とのつながりを意識してもらいたい。日本人もエスニック・メディアにしっかりと向き合るべきでしょう。新たなメディアとして登場する「Immigrants」が日本人と在日外国人の架け橋の役目を果たしてくれるよう期待したいですね。

**白水** きょうはありがとうございました。頑張りますので、ご支援をお願いします。